



みどりの風

令和元年9月2日発行
校報 第566号
〔みどりの風 第109号〕
練馬区立関町北小学校

旧校舎から仮設校舎へ

—ありがとう、そして、さようなら関北校舎—

校長 大野 泰弘

「ありがとう」「お世話になりました」「長い間、お疲れさま」「さようなら」「関北小、大好き」

これらは、8月24日に行われた「さようなら関北校舎」のイベントの中で、参加者の方々が旧北校舎と南校舎に書き残したメッセージの中で、とくに目立った一節です。

参加者は、在校生が約380名、保護者の方や各年代の卒業生などを含めると、本校に縁のある方が1000人近くも集まってくださいました。

各年代の卒業生の皆様には、それぞれの時代での思い出が詰まっているのでしょう。それは、楽しいことばかりではなく、辛いことや寂しいことなどもあったのではないかと思います。それらも含め、今のご自身の人となりや形作る経験を積んだ場所として、校舎へのいろいろな思い出がよみがえってこられたのではないかと思います。校舎は人ではありませんが、「自分を見守ってくれていた」、「自分を包んでくれていた」という思いが、「ありがとう」という言葉につながっているのかもしれない。

当日は、教室や廊下等に絵や言葉を書き表すだけでなく、本校の「関北みどりの風合唱団」の綺麗な歌声のほかに、関中学校の軽音楽部とダンス部、そして、都立石神井高等学校と東京女子学院中・高等学校のダンス部の皆様も、イベントに特別ゲストとして参加し、日ごろの練習の成果を発表してくださいました。中学生や高校生の元気で、はつらつとしたパフォーマンスを見たり聞いたりすると、こういう若い人たちがこれからの社会や世界をリードしてくれるのだらうと、その心のエネルギーに感動いたしました。

また、今年は校舎改築のために恒例の「夏まつり」を開催することができませんでしたので、参加者に少しでも楽しい思い出をプレゼントしようということで、関町北4・5丁目町会、学校施設利用団体、PTA 同好会、開校60周年記念行事実行委員会の皆様が模擬店も出してくださいました。暑い一日でしたが、子どもたちは、模擬店の皆様のお蔭で、のどを潤したり、ゲームをしたりして、楽しいひと時を過ごすことができたのではないのでしょうか。

旧校舎は11月の周年行事の後、徐々に解体されていきますが、校舎への思い出が、参加者一人一人に「心のふるさと」の1ページとして、これからも残っていきつづけてもらえればうれしく思います。

そして、旧校舎とのお別れを経て、今日から2年間限定の仮設特別校舎での学校生活が始まりました。学校には、元気な子どもたちの笑顔と声が戻ってきました。子どもたちは、新しい仮設校舎を見て、どのように感じているのでしょうか。気持ちを新たに、2学期もがんばろうと意欲を高めているのではないかと期待しています。

2学期には、9月に学校・地域合同防災訓練、10月に運動会、11月に開校60周年記念集会・記念式典・記念祝賀会、そして、12月に60周年子どもフェスティバルと、大きな行事が毎月行われます。子どもたちには学校行事を通して、学級・学年としての一体感や一つのことをやり遂げた喜びや達成感などを育んでもらいたいですが、一方で、行事に追われ、日々の授業が疎かにならないよう、十分留意して学習指導を進めてまいります。

保護者、地域の皆様には、仮設校舎での生活にあたり、いろいろとご不便をおかけすることもあろうかと存じますが、子どもたちが安全に、安心して、心を落ち着けて、楽しい学校生活を続けられますように、皆様のお力をお借りしながら学校の教育活動を進めてまいりますので、今学期も、皆様のご理解とご協力のほど、よろしくご願い申し上げます。